

・実施要綱別添3の内容を基準に、テキストと事例を交えた講義、グループ討議、実技演習、自宅学習を実施。

(株)ベネッセスタイルケア

| 科目 | 項目 | 対面 学習 時間 | 自宅 学習 時間 | 実施内容 |
|-------------------------------|--------------------------|----------------|----------------|---|
| 1 職務の理解 | 1-1多様なサービスの理解 | 6 | 0 | ・本研修の目的について説明。 ・介護は病気を治す医療とは異なり「生活そのものを支える」分野であり、「仕事（サービス）」として携わるとはどのようなことなのか理解する。 ・介護サービスには様々な種類のサービスがあることを理解する。 |
| | 1-2介護職の仕事内容や働く現場の理解 | | | ・仕事内容について本研修で学ぶ「知識・技術・理念」がベースになることを理解する。 ・ケアプランの位置づけからサービス提供までの業務の流れ、チームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含む地域の社会資源との連携を学習する。 ・介護サービスの現場で働く介護職員の様子を紹介しているDVD教材を視聴し、介護の仕事についてよりどのような支援があるのかをグループで討議する。 |
| 2 介護における 尊厳の保持・自立 支援 | 2-1人権と尊厳を支える介護 | 1.5 | 3 | ・個人として尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護についてテキスト、現場事例などを交えて学習する。 ・ICF、QOL、ノーマライゼーションの考え方の概要を正しく理解する。 ・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援について、個人の権利を守る制度について概要を知り、尊厳という概念に対する気づきについてグループ討議を行う。 ・テキストを熟読し、高齢者のための国連五原則、QOL、ノーマライゼーションの考え方、バリアフリーとユニバーサルデザイン、高齢者の虐待の種類、財産を守る制度などに関して学習する。 |
| | 2-2自立に向けた介護 | 0 | 4.5 | ・テキストを熟読し、自立支援の重要性と意義、過不足のない介護、過剰介護の弊害、個別支援、介護予防、自己選択・自己決定などについて学習する。 |
| 3 介護の基本 | 3-1介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 3 | 0 | ・訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性を理解する。 ・介護サービスという「専門性」について、自立した生活を支えるための援助、根拠が理解でき、主な職種とチームケアの重要性や役割、連携について理解する。 ・「家族による介護と専門職による介護の違い」について、グループで討議し、専門性を伴った介護サービスの提供とそのための学習の大切さを理解する。 |
| | 3-2介護職の職業倫理 | 0 | 1 | ・テキストを熟読し、介護職（専門職）としての社会的責任を理解し、法令順守のもと介護を行う場合に必要倫理的判断の視点、介護職の職業倫理、利用者のプライバシー、介護福祉士の職業倫理等について学習する。 |
| | 3-3介護における安全の確保とリスクマネジメント | 0 | 1 | ・テキストを熟読し、リスクマネジメントと危機管理の違いを知り、介護事故と労働災害、事故予防と安全対策の重要性について介護職における安全確保、危険予知訓練、感染症予防について学習する。 |
| | 3-4介護職の安全 | 0 | 1 | ・テキストを熟読し、介護現場において健全なサービスを提供するためにも、介護職員の心身における安全衛生、介護職員のこころの健康管理について学習する |
| 4 介護・福祉 サービスの理解と 医療との連携 | 4-1介護保険制度 | 1.5 | 2.5 | ・介護保険制度創設の背景と目的、動向、基本的な仕組み、ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括センターの設置、地域包括ケアシステムの推進、介護保険制度を支える資源、組織・団体の機能と役割について、財政負担、指定介護サービス事業者の指定について学習する。 ・テキストを熟読し、介護保険制度創設、介護保険法の概要、要支援、要介護認定、介護財源、保険給付、サービス事業者の指定、更新、他事業、介護保険のしくみに関する問題に取り組む。 |
| | 4-2医療との連携とリハビリテーション | 0 | 1.5 | ・テキストを熟読し、介護における医療と福祉の連携の大切さを理解し、医療職が行う医行為と介護職が行える医行為の違い、リハビリテーション、心身機能の回復（狭義）だけではなく、可能性を伸ばしあらゆる角度から支援する過程（広義）の側面と、看護と介護の連携について学習する。 |
| | 4-3障害福祉制度及びその他制度 | 0 | 3.5 | ・テキストを熟読し、障害者福祉の理念の概要、障害者の定義と手帳制度、障害福祉サービス、個人情報および個人情報取扱事業者、成年後見制度、日常生活自立支援事業、虐待防止制度について学習する。 |
| 5 介護における コミュニケーション 技術 | 5-1介護におけるコミュニケーション | 2 | 0 | ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について、相手の心身機能に合わせた配慮の必要性を理解し、状況・状態に応じたコミュニケーションについて学習する。 ・利用者役と介護者役となり、ロールプレイングによるコミュニケーション技術を体験し、現場でも意識して磨いていく必要があることを理解する。 |
| | 5-2介護におけるチームのコミュニケーション | 1 | 3 | ・記録における情報の共有化、報告・連絡・相談・コミュニケーションを促す環境について、テキストに沿った事例を基にグループで討議する。 ・テキストを熟読し、事故報告書、報告、連絡、相談や、居宅サービスにおけるサービス担当者会議、ケアカンファレンスについて学習する。 |
| 6 老化の理解 | 6-1老化に伴うこころとからだの変化と日常 | 3 | 0 | ・老化に伴う防衛反応（反射）の変化、喪失体験を心身の変化の特徴や、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節・体温維持機能の変化など、身体的・精神的機能の変化とそれに伴う日常生活への影響を学習する。 |
| | 6-2 高齢者と健康 | 0 | 3 | ・テキストを熟読し、高齢者に多い疾患や生活習慣病などについて学び、日常における高齢者の生活支援の留意点を理解し、高齢者の意識障害、老化に伴う疾患、廃用症候群が引き起こす症状、高血圧症、老人性高血圧、老化に伴う脳血管疾患について学習する。 |
| 7 認知症の理解 | 7-1認知症を取り巻く状況 | 3 | 0 | ・老化の理解において、現場で多くの利用者が患っている「認知症」について、テキストに沿いながら、現場事例などを交えて学習する。 ・認知症ケアの視点、パーソンセンタードケアについて、DVD教材を活用して、実際の認知症の利用者を紹介するとともに、どのような対応が望ましいか、グループで討議する。 |
| | 7-2医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 0 | 1 | ・テキストを熟読し、認知症という疾患、認知症に類似する症状、障害の状態や原因となる疾患理解、予防対策や健康管理について学び、アルツハイマー型認知症と脳血管認知症の比較、認知症の特徴を知り適切な支援について学習する。 |
| | 7-3認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | 0 | 1 | ・テキストを熟読し、中核症状と行動・心理症状の現れ方や症状、認知症の方とのコミュニケーションや基本的なケア、認知症の方と向き合うための介護職員の基本的姿勢、ケアマネジメントセンター方式について学習する。 |
| | 7-4家族への支援 | 0 | 1 | ・テキストを熟読し、認知症の方を介護する家族の身体的、心理的負担について、家族（介護者）の思いに寄り添い、適切な情報、サービスの提供、多職種との連携など、介護職としての支援、役割、家族介護者へのエンパワメントについて学習する。 |

| 科目 | 項目 | 対面 学習 時間 | 自宅 学習 時間 | 実施内容 |
|----------------------|-------------------------------------|----------------|----------------|---|
| 8 障害の理解 | 8-1障害の基礎的理解 | 0 | 1 | ・テキストを熟読し、障害の概念とICFの考え方、障害者基本法、障害福祉の基本理念、ノーマライゼーション、個人の尊重、インクルージョン、QOLの向上について学習する。 |
| | 8-2障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特 | 0 | 0.5 | ・テキストを熟読し、さまざまな障害における症状、障害（肢体不自由音声、言語、咀嚼機能、内部、精神、知的障害など）、介護をする上での留意点について学習し、障害者（児）を正しく理解し介護の基本的姿勢について学習する。 |
| | 8-3 家族の心理、かかわり支援の理解 | 1.5 | 0 | ・障害の受容の過程を通し、家族への支援とその方法、家族を支える仕組みについて、何があるか、何ができるかをグループで討議し、テキストに沿いながら学習する。 |
| 9 ことごとからだのしくみと生活支援技術 | 9-1介護の基本的な考え方 | 0 | 2 | ・テキストを熟読し、ICFの視点・理論と法的根拠に基づいた介護、将来的な介護、医療サービスと介護サービスのアプローチの違いなど、適切なサービス提供のために必要な視点や理論や根拠にはどのようなものが考えられるかについて学習する。 |
| | 9-2介護に関するところのしくみの基礎的理解 | 0 | 5 | ・テキストを熟読し、記憶や感情のメカニズム、障害、自己の概念、老化や障害の需要、適応について学習し、『階層構造』など、心のありようを理解した介護は、尊厳を守る介護につながることにについて学習する。 |
| | 9-3介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 0 | 5 | ・テキストを熟読し、人体の構造やその働き、バイタルなどの基本知識を学び介護職員としての日々の観察力を養う必要性を学習し、利用者、介護者双方にとっての安全で安楽な介護の実践について学習する。 |
| | 9-4生活と家事 | 6 | 0 | ・家事サービスのあり方について、買い物、調理（食事）、洗濯、衛生管理、清掃において、個別性、生活歴、生活習慣との関連など、テキストに沿いながら学習する。 ・利用者の日常生活の維持・向上を目指し、生活背景の異なる利用者に対して、援助のポイントをグループで討議する。 |
| | 9-5快適な居住環境整備と介護 | 3 | 0 | ・安全で快適な環境の基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用、住居内における事故防止（安全対策）について、テキストに沿って学習し、利用者にとって快適な住環境、住居内で起こりうる事故についてグループで討議する。 |
| | 9-6整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | 0 | ・ADL、生活場面ごとの「生活支援技術（自立度に応じた身体の介護技術）」における、身体状況に合わせた衣服の選択と着脱、身支度、整容行動、洗面の意義・効果について学習し、提示した事例について、利用者の自立に向けた衣服の着脱方法を考え、その実技を演習する。 |
| | 9-7移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 12 | 0 | ・ボディメカニクスの基本原理、重心、重力の働きを理解し、利用者介護者双方が安全で安楽な移動・移乗の方法について学習する。 ・移動や外出（社会参加）とその自立の大切さなどを理解する。 ・車いすや杖を用い提示した事例、ベッド上での体位変換（水平移動・寝返り・側臥位から端座位）から、ベッド・車いす間の移乗、車いす移動、視覚障害者の歩行介助、肢体不自由者の杖歩行介助をロールプレイング形式で行う。 |
| | 9-8食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | 0 | ・食事にに関する知識、環境整備、福祉用具、食事形態、食事にかかる様々な事柄、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防について学習し演習する。 ・持参したお弁当を用い、提示した事例（利用者）について、自立に向けた食事方法を考え、食事、口腔ケアの実技をロールプレイング形式で行う。 |
| | 9-9入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | 0 | ・入浴、清潔保持に関する知識の理解と支援方法などについて、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて学習する。 ・簡易浴槽等を用い、提示した事例について、自立に向けた入浴・清潔保持の方法を考え、入浴、洗髪の手助、清拭、座位での足浴、爪切りをロールプレイング形式で行う。 |
| | 9-10排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | 0 | ・排泄に関する知識の理解と支援方法、生理的・心理的・社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響を理解し、心理的な負担、尊厳や生きる意欲との関連、便秘の予防などについて、テキストに沿いながら、現場事例などを交えて学習する。 ・ベッド上での紙おむつ交換の手助、ベッドからベッド横ポータブルトイレでの排泄手助をロールプレイング形式で行う。 |
| | 9-11睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 4.5 | 0 | ・睡眠に関する知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、安眠のための介護の工夫、安楽な姿勢・褥瘡について、テキストに沿いながら、現場事例などを交えて学習する。 ・ベッドを用いて、提示した事例（利用者）について、ベッドメイキングや体位変換など利用者の自立に向けた睡眠方法を考え、演習する。 |
| | 9-12死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | 1.5 | 0 | ・終末期に関する知識と、生から死への過程、死に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援が理解できるようになる。 ・尊厳ある死についてグループで討議し、テキストに沿いながら、現場事例などを交えて学習する。 |
| | 9-13 介護過程の基礎的理解 | 2 | 0 | ・介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ、について、テキストに沿いながら、現場事例などを交えて学習し、グループで個別援助計画書の作成を行う。 |
| | 9-14 総合生活支援技術演習 | 10 | 0 | ・事例の提示→ことごとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→課題の発見という流れをグループごとに行う。 ・事例は高齢（認知症・片麻痺）の2事例 |
| 10 振り返り | 10-1 振り返り | 4 | 0 | ・研修を通して学んだこと、継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点をおさらいし、介護職として重要な視点・姿勢についての要点を、グループで討議する。 |
| | 10-2 就業への備えと研修終了後における継続的な研 | | 0 | ・介護サービスに従事してからのあるべき姿、次のステップへ高めるため継続して学習・研鑽する課題についてについて伝達する。 |
| 修了試験（科目含まず） | 修了筆記試験 | 1 | 1 | |

90.5 41.5